

地区別意見交換会 記録(概要)

開催日時	令和元年8月6日(火) 午後5時00分 ~ 午後6時50分		
開催場所	足尾公民館 会議室1・2		
出席議員	和田公伸(代表者)	青田兆史	亀井崇幸
	山越一治		
参加者数	15人 (傍聴者) 齋藤伸幸議長、齋藤文明副議長、齋藤正三議員、高橋足尾行政センター所長		
報告内容	地域のことを教えてください！		
市民意見	議員意見		
<p>上間藤の世帯数は約81世帯で、自治会加入率がほぼ100%である。自治会の特徴としては、75歳以上が大半を占めている。役員は2年ごとに上間藤と全体で選挙をして、上位のほうから選ばれる。組長は1年交代で、組の順番でやっているが、高齢者が多いことから飛ばし飛ばしということが目立つようになってきた。主な活動は、総会はその都度、役員会は月に一回は開催している。特徴としては、1月26日を防災の日と決めている。この日は消防と自治会役員で、カラーのチラシを作って各家庭に回りながら、消防車で声をかけをしている。1月中旬はどんど焼き、5月3日が足尾祭がある。8月の納涼祭は、自治会長賞を出して、仮装の方々には張り切っていたとくというようなこともやっている。5月は成人病検査でできる限り受けてくださいと声かけしている。6月は下水清掃ということで、全世帯あげて草刈をはじめ下水のゴミを清掃している。それから7月は神社のお祭で協力いただきながら行っている。5月と11月はクリーン大作戦ということで、不法投棄のゴミを集めてクリーンセンターに持っていく。納涼祭は、寄付を集めている。貯筋アップ体操は、集会場を使って老人会と自治会がタイアップをしながら、月のうちに日曜日が4日あれば3日は体操、1日はカラオケというようなことで行っている。社会福祉協議会とお喋り会を年に1度、各地区を回っている。防犯・交通安全等の講話を警察から聞いている。公民館、年間計画の取り組み、消防の点検時の参加などを行っている。</p>			
	<p>私の印象は、高齢ということもあるが、高齢は高齢なりに、地域を守っているとわかった気がする。防災の日に力を入れているとか、頭が下がる思いである。足尾は助け合いの雰囲気というのがある場所だと強く感じた。こういったものを我々はどうやってお手伝いすることができるのかということ、議会のこれからの活動においても、勉強になるのかなということ、真剣に取り組まなければならないということは、非常に感じている。</p>		
<p>私たち女性は、保護司であったり、民生委員や児童委員であったりとか、いろんな役をしながら更生保護女性会に入っている。地域・隣近所との付き合いというのを大切にしている。今、私たちがやっているのが、小学生に対して、読み聞かせに行っている。掃除ボランティアということで、小学校は月2回、中学生は年に5回くらい行っている。中学校は、給食と一緒に子供たちと食べながら、コミュニケーションを図っている。外で子供たちが何か危険な目にあったりとか、また間違った行動をしたりしたときに、私たちが監視の目になるということで、子どもたちと地域との繋がりを持っている。</p>			
	<p>小学生に対し読み聞かせボランティアを行ったり、子供たちと給食も一緒にしたり、本当にすばらしい。</p>		
<p>足尾地域には塾とか習い事をするとところがない。そのため、書道を夏休みと冬休み、下野書道展に出す作品をつくるのを指導をしている。学校ボランティアで登録して、子供たちにミシンの使い方を教えたりとか、中学校で郷土料理の作り方を教えている。また、小学校で、茶道・華道を教えている。</p>			
<p>足尾町全体的に言えることだが、空き家に大変困っている。足尾で4軒が危険家屋の認定をされた。しかしながら、まだ1軒も壊されていない。弁護士が入って探しても、孫とか甥っ子だと、私は関係ありませんという話の中で、足尾で1軒も壊されていないという状況がある。私たちは、対策として、毎年桜の木を植えている。</p>			
	<p>空き家については、市も一生懸命取り組んでいる。1つは、法の壁があると思う。例えば、この建物は危険と認定していかなければならない。そうしないと、やたらに壊すことはできないという制度になっている。これについては我々も然るべきところに、こういう話があったと繋げたいと思う。</p>		

市民意見	議員意見
<p>老人会の役目は大切だということを、県や市の研修で言われた。しかしながら老人会で対応する部分が、あまりにも少ないと思った。位置付けがあまりにも少ないのではないか。今の老人会の対応というのは、認知症の問題だとか、健康促進の問題ということで福祉関係で進めている。議会の中でもバックアップというか、真剣に考えていただきたいと思うので、お願いしたい。</p>	
	<p>高齢化が進んでおり、今後大切な部分になってきていると思う。しっかりと議会のほうへ持っていき、サポートできるような方向で進めればいかなと思っっている。大変ご苦勞をおかけするが、調整していただければと思う。</p>
<p>生ゴミが少なくて、ポリエチレン関係の包装紙や豆腐の容器などがかなり占めている。ポリエチレンの使用制限、これは深刻な問題である。再利用できる紙とかで対応するよう、議会の中でも真剣に考えていくべきではないかと思う。また、環境美化委員会の中で毎年3回くらい、自分でマイバックを持ってほしいというような行動をとっているが、レジ袋を使わないように、市で何とか対応はできないか。</p>	
	<p>ポリ袋について、規模として市単独でできるかということは、今の段階ではできません。国がそういう方向性を示して、これを使ってはいけませんとか、代替のものができていかないと進んでいかない。例えば、今度溶けるようなストローということで、今、技術革新も待ちながら、こういったものに取り組んでいく必要があるのかなというふうには思っている。</p>
<p>ポリエチレンの問題は、国が企業に生産は止めなさいとしていかないと難しいと思う。しかしながら、市全体でマイバックとかあるいはポリエチレンを使わない紙バックなど業者に要請、それはできることだと思う。それから国が動くのではないかと思う。国がやらないからそれやらないということではなくて、議会の中でもそれを一つ一つやってほしい。できる範囲からやっていただきたいというのが私の考え方である。</p>	
	<p>例えば、先ほど生ゴミの話が出たが、水きりしないと、かなりの燃料を使って燃やすことになる。水切りしてもらおうと燃料も少なくて済むし、費用も減っていくということもあるので、そういったこともご家庭をお願いしながら、そして一方では我々も考えていかなければならないと思っっている。</p>
<p>各地域に集会所がある。全地域に集会場があるのは、たぶん足尾だけではないかと考えている。集会場がなくなった場合には、集まる場所がどこだということになってくると、できなくなってくるものがある。できれば集会所の管理について、県や市で何か方法がもてないだろうかと思っっている。</p>	
	<p>足尾地域で検討委員会で、自治集会場についてはどうしていくのか皆さんに意見を求めたりしていく。市はいろいろな考え方がある。例えば、その集会場を自治会の人たちにあげますからとか、いろいろな方法がある。もらう前には、修繕してもらいたいというものもあるだろうし、いろいろなことがある。それらを話し合いの中で、どうしていくのかということで、忘れてもらって困るのは、日光市では公共施設マネジメントという、公共施設をどうするのだという大きな命題があります。これについては、なるべく段々使われなくなるものは壊していくということになる。ただ、闇雲に壊すということではない。これは皆さんの意見を、5年間ぐらいかけてまとめて、皆さんのほうに示す。ただし、今のまま維持しますということはありませんと思っっている。市が維持することはありえない。その辺については、今後、検討委員会があるから、その中で皆さんのご意見はたぶん反映されると思う。</p>
<p>5年間で壊してしまつたら、地元は大変。</p>	
<p>壊すというのではなくて、自治会が管理をするということ。</p>	
<p>管理をするということは、人口がどんどん減っていく中で、残った人がそれを持つということは、事実上抜けたと。</p>	
<p>それを話し合ってくださいというのを、5年間かけてやっていく。</p>	

市民意見	議員意見
月に2回10人くらいでフォークダンスをやっている。その後は、お茶を飲んで、30分ぐらい世間話をして帰る。	
	そういう集まる場所というのは大切。
高齢になって免許を返納する方が多くなっている。私たちが返納した場合に、この土地で生活できるのかというのが、時々話題になるが、そういった面での社会インフラ的なことは、どのように考えているのか。	
	返納したらタクシー券がもらえる。
叔母が最近返納して1万円分もらったが、初回だけである。その後どうしようかなというところである。	
	タクシー券だけでは足りないかと思うが、その後の移動方法とかは何か工夫されているか。
移動方法がなくなるから、その後、例えば共同でタクシーを雇える状態にできるようにするとか、いろいろな考え方があると思う。どちらにしても足尾町はお店も少ないし、今市や日光に買い物に行かざるを得ない。今、高齢者の方は買い物に行けないので、生協に入って物を頼んだりとかしているが、やはりそれだけでは十分ではないので、孫たちが帰ってきたときに一緒に車に乗せてもらって買い物している状況が多い。もっと気軽に運転できる方をオーダーできるような、しかも安価でというシステムができるといいなと思っている。	
海外ではドライブシェアというのをやっていると思う。そういうのが日本に入ってきて、ちょっとした個人タクシーということになるが、そういうことが地域や地方では必要になってくると思うが、その辺を日光市議会の人たちは意識的に勉強をされているのか。	
	それぞれの考えはあると思うが、議会としてそれを議論しているとこまでいってないと思う。非常に高齢者の事故が多い、それも重大な事故が多い。それを考えたときに、これをとめるにはどうしたらいいかと、1つの方法として免許返納をしてもらって、別な方法で生活してもらおうということだと思う。その別な生活の方法というのが、いくつかある。例えば、タクシー券というものもあるけれど、そうではなくて、公共交通をどうしてやっていくかというの、日光市としても真剣に取り組んでいる。そういったことでは、何もしていないということではなくて、それぞれの委員会で取り組んでいるので、いつまでということと言えないが、取り組んでいるということだけは、ご承知願いたいと思っている。これについては市民福祉教育常任委員会で一生懸命取り組んでやっていますので、そこは少し我慢強く待っていただきたいと思う。
足尾が気分的にも疎外感があるというのは、鉄道が繋がっていないというところである。日光、今市、藤原、三依から会津まで鉄道で繋がっているというのは大きい。奥日光とか足尾というのはバスしかない。免許が返上になれば、どうしようかなというものはものすごくあると思うので、そこら辺を頭においてほしい。	
	日光市でデマンドバスを走らせた方がいいが、なかなか利用者が1人程度と、非常に利用価値がない。それで、デマンドタクシーを今市南部地区の自治会で、税金を使い、各利用者の負担、自治会の負担も受けながら、三位一体の中で立ち上がったななつ星タクシーというシステムがある。今後日光市内の各地域に、そのシステムを生かしていこうということで、私の地域もいろいろ勉強会なんかもやりながら、今後検討していく。どうしても現在の状況だと、デマンドバスという停留所を拠点に考えると、なかなか利用価値がない。タクシーというドア・ツー・ドアで対応できるような、ななつ星タクシーのようなシステムが、日光市内の各地域で立ち上げればということと、市ではいろいろ検討している状況。足尾地域の免許証返納における交通弱者の問題というのは、これからずっと日光市内の課題だと思うので、ぜひともよりよい政策に、いろいろなご意見をいただきながら検討していきたいなと思っている。

市民意見	議員意見
<p>社会福祉協議会で買い物バスを週2回無料で日光方面に出している。社協のほうに登録して、無料で日光方面に買い物に出かけている。それは本当に助かっている。水曜日と金曜日に走っている。前は民間のバスを借りたので有料だったが、今は社協のバスを利用するので、無料になっている。</p>	
	<p>社協はいろいろ地域の社会福祉に関して、非常に密着していろいろ考えている。</p>
<p>車がない人が買い物に行きたいというので、ついでに乗せる。身近な人がタクシーがわりではないけれども、利用できるようなシステムが何かできてほしい。</p>	
<p>ドライブシェアリングはちゃんとした職業として登録になる。日本の地方はそうでないと、高齢化社会になっているので、その辺は国の施策になってしまうが、地方から声を上げていくことが必要かなと思う。日光市自体で考えて、声を上げて要望するというのも1つの手かなと思う。</p>	
<p>合併5年後には平等にするのだという条件で、合併になったわけだが、今市の中心街と足尾が平等かなと思う。</p>	
<p>鹿沼から、水曜と土曜日に移動販売が来てくれる。それから、群馬のほうから週2回ぐらい来てくれるので助かっている。お魚でもお肉でも、野菜でも何でも持ってきてくれる。</p>	
<p>切幹・原・唐風呂・餅が瀬の4つの自治会が小学校区内でまとまって、南部地区親睦会をつくって、当初からわたらせ渓谷鐵道のイルミネーションの取り付けをボランティアでやっている。各自治会の繋がりをより多く求めていたいと思っているので、16年間のボランティア活動というのは、かなり評価してもらいたい。</p>	
<p>足尾は元々人口が4万人で、今は2,000人を割っている。こういう地域をどういうふうにやっただけのいいのかなというのを、議会として検討してもらえたら助かるかなと思う。</p>	
	<p>議会や市が何をしてくれるのではなくて、自分たちは何をしますということが先だと思う。4万人が2,000人になった、これはある意味では、古河さんがいろいろなことで撤退して、この地域に働く場所がなくなってきたということがある。そこで嘆いていても仕方ない。2,000人の人が足尾はどうするのだということを話しながら、ハード的にはなかなか難しいと思うので、ソフト的にいろいろなことを皆さんが考えて、足尾を盛り上げてもらおう。例えば、盆踊りでやぐらを建てて、立派なお祭なのだろうなと感じている。お盆の期間は、里帰りでいろいろな方が来る。その人たちは、やっぱり楽しみにしているのだと思う。そういったことをできる限り、伝統文化とかをなくさないようなことで、皆さんで盛り上げていってほしい。その上で、議会は何を手伝ってくれるかというかたちでないと。最初から議会がこうしたらいいのではないのですかと、そういうのはできない。だから意見交換の中で、皆さんの意見を聞きながら、それを議会にということなので、そこはお願いしたいと思う。</p>
<p>私も同感。相当人数が減っているけれども、悩むこともないし、自慢することもない。日光において、これほど高齢化が進んでいるのは足尾町。ですから、これから10、20年後、足尾町が過疎の中で自慢できるような、誇りに持てるような、そういうまちづくりを少しずつでもやっていきたいと思っている。</p>	
	<p>我々も、一生懸命サポートしたいなと思っている。</p>

市民意見	議員意見
<p>足尾の状況というのは、人口も激変している、高齢者のまちなってしまった。自分たちで何をやると言っても、何もできる状況ではない。例えば、足尾地域を生かす、この地域を生かすのであれば、この地域、高齢者のまちなすような政策を、日光市はとるべきではないのか。議会が執行権はないにしても、議員の皆さんたちはちゃんと提案できる。そういう高齢者を生かすための政策を、何で打ってくれないのか。自分たちがまずやることを考えてほしい。この地域の現状を見て、これだけ高齢者だけになってきて、自分たちだけで何かをやろうとしたって、できるような力がもうなくなってしまった。私たちの団体もいろいろな活動をやってきた。やってきたけど、今、やれと言われてもできない。外部から入ってきている人たちに手伝ってもらいながら、かろうじてやっている状況で、それもかつてやっていたことはできない。しかし、足尾は高齢者で元気な人たちが集まって、いろいろな活動を始めてくれている。だからそういう団体さんが生かせるような、光が当たるような施策を、行政側でも、ぜひそういうところに目を向けてほしい。またさらにその光を、より輝かせられるような情勢を、ぜひ議会から行政に提案していただきたい。</p>	
<p>家にこもらないで集まる場所をつくろうということで、元行政の建物を無料で貸してもらい、自分たちの手作りで全部持ち寄り、昨年4月通洞駅前にサロンを開設した。そのとき、何もしてあげられないという条件で借りた。行政は当てにしないでやろうという考えでいる。何が困ったかということ、光熱水費はなんとか稼いださなければならぬということで、灯油代がかかるから冬はやめ、すかい荘のパンを安く仕入れさせてもらって、その益で光熱水費を出している。あとは、違う団体に補助金申請をし、中の設備を整えたりしている。行政の立場もわかるから、こちらも無理は言えない。自分たちで開いたのだから、自分たちで何とかしよう。高齢者だけでなく観光客の接待を主にやっている。金土日しかオープンできないが、昨日は月曜日がオープンして、おもてなしをしたら、とても喜んでくれた。若い人たちが足尾に来てくれるのは嬉しい。灯油代がかかるということで、10月いっぱいまでになる。年を取って足尾にいても、皆で楽しく生活できればいいかなと。家にいて黙っているのではなくて、集まって腹から笑える、みんなで話するのが凄く楽しい、そういう場所をつくったが、なかなかお年寄りに来ていただくのは難しい。昔の足尾の歴史がわかるDVDを全部揃えたので、昨日も学生さんたちに昔の足尾を見てもらった。そんなことができる場所があるので、利用してもらえると嬉しいなと思う。</p>	
	<p>観光として考えたときに、おもてなしをよくやっていたらいいなと感じた。そういったことが旅人にどれだけ心打つか。今後も続けていってほしいし、もしそういったもので何か不便があれば、それは議会のほうでも取り上げていきたいと思う。サロンについては、もっとふやしていきたいというところがある。場所によっては、オアシス介護支援事業でやっている場所もある。そこで皆さん苦労しながら、人を送迎したりしている。サロンを生かしていくのであれば、充実させることが大事なのかなと思っている。これは、豊かな生き方の1つだと思います。</p>
<p>とにかく足尾に行ったら良かったという印象を持って帰ってほしい。金土日に私たちが行くときは、ごはんいっぱい炊いていく。お昼が食べられなかったという方に、おにぎりをどうぞとすることまでやっている。足尾で楽しく過ごして帰っていただける、それが一番。2年で辞めようと思ったが、石の上にも3年と、3年はやれとはっばをかかれたので、3年はやろうと。もっとどんどん手伝ってくださる方をふやして、若い人が入ってくればもっと続かなと思う。</p>	

市民意見	議員意見
<p>下間藤に住んで30年になるが最初は55世帯あったが、今は22世帯で60%減になっている。自治会長をやっているが、当時は比較的30代の方だったが、その下が入って来ない。自治会の質が違う。会議にもやっとな出てくる、ゴミ拾いにもやっとなお祭などの行事も成り立っていないというような中でやっている。続けられるのかと考えると、5年もてばいいほうかなという状態。限界集落になっているが、それをはるかに超えている状態。足尾全体がそうだと思う。悪いことばかりではない。年寄りが多いということは、それだけ自分なりの歴史を蓄積している。いろいろなことを知っている。今いる人は皆、資源です。1人でも多くの人に、自分の人生を何でもいから語れと、いろいろな情報を聞きたい。残していかなければ、それは消えてしまうわけですから、残すために話を聞くということが重要になってくる。足尾の産業遺産は日光のどこをとってでもない歴史である。まだまだ足尾は捨てたものじゃない。ただ、それをどういうふうにかたちにしていくかというのが、はっきり言って私たちもわからない。専門家はいろいろいるが、ペーパーにしたって1枚か2枚で終わってしまう。読み応えがない。それくらいの知識しか私にはないので、こういうふうにやったらいいよとかというアドバイスがあれば、もっとかたちになって10分間読んでくれると、20分間ここにいてくれるわけです。それが積み重なれば、喉が渇いたとなれば自動販売機で100円使ってくれるかもしれない。そういうつまらないことが、経済効果の1つなのかなと思うが、そういう仕掛けがよくわからない。</p>	
<p>たくさん資源はあると思う。日光の二社一寺のような綺麗な煌びやかな歴史はないかもしれないが、泥臭い環境問題でぐちゃぐちゃになった歴史がある。給水場は稼働しているが、環境問題でやらざるを得ないというものが現実的に残っている。またそれを説明できるということもあるわけなので、そういうものを生かしてみる、足尾という存在価値がまだまだある。自分の趣味として山登りをするが、日光市内の山は全国でも一番自然を大切にしている。要するに手を入れていないということ。日本百名山が、日光市は日光白根山、男体山、足尾皇海山の3つもある。どこ見ても、登山道は整備されていない。ほかの登山道はもう自治体が、お客さんを安全に誘致したいということで、しっかり整備している。そういう面では、自然豊かな日光なのかもしれないが、やはりおもてなしという言葉を使うのだったら、ある程度はやってもらいたい。</p>	
<p>今年5月に足尾に来た。古河という企業城下町の没落体制、はっきり構造的な問題としてはあるのだと思う。地元の人たちが集まって、どうしたらいいのかと意見を出し合うことが、本当に大事だと思う。何をどうやるかというのは具体的ではなかったら、もうほとんど絵物語。言うだけは簡単だけれども、それを実行していく、実現していく、諦めないでやりとおすという思いを持たないとできない。空き家がたくさんある。なんでこんなのをほっぽとくのだろうと。どんどん活用していったらいいのではないかと率直に思った。私も足尾町の一員になったので、具体的にそれを実現していかなければならないということ。私は最大限、足尾町で買い物している。野菜も含めて高い。ないものだけは今市に行って買いますけれども、できるだけ足尾の町で買い物しようと思っかけて、ささやかだがやれることはやる。隣のおばあちゃんの庭の草刈もやってあげたり、できるところは自分でやってこよう。そういう思いで皆でやっていってもらえれば、何とかかなるのではないかなという思いは持っている。</p>	
<p>向原だが、人口が減ったということで、今までやっていた行事がなくなっている。集会場を今までために使っていたのが、ほとんど使われないような状態になってきた。何年か前に運動会をやったが、今は高齢化になってできない。足尾町全体でやって楽しんだのが思い出される。</p>	
	<p>藤原の例だが、今までのような運動会ができない。どうしたらいいかというときに、ニュースポーツみたいなベタンク・ゲートボール・ゲームをしたり、種目を変えてやっている。高齢の方でもできるような種目になってきたというのも事実。復活してもらいたいと思う。年に1回、町内運動会ではないけれど、体育祭みたいなのを、学校があるし、そういったところでやることは意味があると思う。何らかのかたちで皆さんが集まれるようなことをしていかないと疎遠になってしまう。そういったことでは、それをお願いしたい。運動会を盛り上げるとか、そういったことで、とにかく人とふれあう方法をいろいろな方法で考えるべきだと思う。サロンやイルミネーションも一緒。こういったことでボランティア的なもので人が集まってくる。集める、そういったことで、豊かに気持ちよく生活を送ってくれるようになるのではないかなと思う。</p>

市民意見	議員意見
<p>足尾は財産区ではないので、企業があって人口が保たれている。今、古河系列で3社と双愛病院がある。その働く人たちが約50～60%が今市とか他の地区から通っており、夜はいなくなる。若い人が永住できないかたちになっている。今、支えあうとか、社協や民生委員などがいろいろなことを各分野でやっている。しかしながら、足尾全体をどうするかということは、支えあいではできない。基本的な問題は、人口や高齢者の問題、いろいろなことで議会や行政を頼らなければならない問題があると思う。私の地区は宿舎があり、30戸数は泊まれるが、今は17戸数が空き家になっている。若い人が来るが2、3カ月出て行ってしまふ。やはり環境で夜に買い物もできない、遊ぶ場所がない、若い人は嫌になってしまう。疲れを癒せないということで辞めてしまふ。お互いが気持ちを擦りあうということは、いろいろなことで努力している。基本的な問題は、行政がきちんとした柱を建てなければ、住んでいけない。今市は農業、日光は観光、藤原は観光で柱が立っている。足尾は観光だけ柱は立っていない。足尾にバスが来るが、買い物をする場所がない。ゴミだけおいていってしまうこともある。人口をどうするかが、基本的な問題。行政と我々の民間が携え合いをしなくてはできない問題、基本的な問題は行政サイドに柱を建ててもらわなければならない。高校跡地は今は更地になったがもったいない土地である。県の土地なのでその辺は議会で、手を伸ばさなければならない。我々は、そういうことはできないから、そこらを考えていただきたい。あの土地を市で、どういう考えで持っていくのか、検討していただきたいと思う。大変な問題だと思うが、どうにか人口減少を止めていただきたい、それが私の願い。</p>	
<p>【班としての総括・所感】 今回の地区別意見交換会でも「地域のことを教えてください」をテーマに旧今市以外の5地区に分かれて開催し足尾地区を担当。今回の参加者は自治会や専門分野に関わる団体の皆様に御参加いただき多くの地域の御意見をいただいた。主な内容は、 ○防災や祭りの参加、地域清掃、福祉活動等積極的に活動される自治会活動 ○地域や隣近所を大切に、清掃ボランティアや常日頃から子ども達とコミュニケーションをとる等を活動とした更生保護女性会の活動 ○学校支援ボランティア活動 ○空き家対策 ○老人会活動 ○環境美化活動 ○各地域にある集会所での活動 ○社協や民間による買い物支援 ○小学校区内の4つの自治会で行っている自治会内連携やボランティア活動 ○通洞駅前サロンでの高齢者や観光客 ○若者とのコミュニティーづくり ○足尾皇海山 など多くの意見を挙げていただき、大変素晴らしい足尾地域の御意見をいただいた。そのような意見の中にもやはり高齢化や人口減少による不安なご意見やそれに伴った交通弱者問題や地域が衰退し自治会機能が困難な課題など今後の活動の裏にはそういった御意見もありました。 しかしながら地域の絆や足尾に対する熱い思いを感じた御意見もあり、日光市でも特色があり存在価値のある産業遺産のまちを今後の将来も過疎地域だけど自慢出来る、誇りを持てるようなまちづくりをやっていくという素晴らしい意見もいただきました。 今回の市民意見を十分に受け止め、足尾地域の人口減少、高齢化問題に取り組み、人口減少を少しでも歯止めが出来る施策、地域活動を今後も持続出来るような仕組みづくりを政策立案すべきと班全員が共通認識として捉えました。</p>	
<p>【今年度の地区別意見交換会についての課題】 今回は日時もよく特に時間帯などもよかったが、今後も同様の意見交換を開催するのであれば地域や対象者に寄り添った内容や時間帯を工夫し、多くの団体や様々な市民個人の参加をいただき御意見を伺うべきである。</p>	
<p>広報広聴委員長 様</p> <p>上記のとおり、報告いたします。</p> <p>令和元年12月20日</p> <p>第1班 代表者 和田 公伸</p>	